

ジオパーク下仁田協議会推進運営委員会顛末

日時 平成28年 9月 20日(火)

午後1時30分～4:30

場所 下仁田町役場 2階会議室

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 協議事項

(1) 各専門部会活動状況について

⇒資料P. 1 - 3を事務局で説明し、補足を各専門部会にいただいた。

(2) JGN関東大会(下仁田大会)について

⇒別紙 ねぎ祭りと関東大会パンフおよび関東大会募集要綱を用いて

これまでの準備状況を説明し、募集要綱について検討していただいた

(9/20付けで各ジオパークに発送済み)

(3) JGC委員との次回再認定審査に向けた意見交換

⇒JGN事務局の目代先生を招いて意見交換を行ない下記のコメントをいただきました。

- ・協議会組織の再編と部会活動など、ボトムアップの体制はある程度整ってきたので、ジオパークに興味を持った人がジオパークに参画できるように部会活動をもっとオープンにし、輪を広げるようにしたほうがいい。
- ・産業観光部会で取り組んでいるジオ商品の確立は全国的に取り組み始めたものどこもまだ成功していないので、失敗例なども共有しつつ試行錯誤し、成功したらネットワークに還元できるようにしてほしい。

- ・ジオサイトの研究成果の整理について

非常に重要な作業で、信憑性、査読有りなしに関わらず 全部拾い集めておくことが大事。それらを基にジオストーリーやガイドの説明が作られなくてはいけない。実際にストーリーに採用する際の学術的な信用度は県博や自然学校など学術専門家のセンスで判断して欲しい。

- ・現在ユネスコの正式プログラム化によりいままであいまいだった「ジオサイト」の定義付けが再確立されようとしている。地質地形に基づく露頭や山などは「ジオサイト」、ジオの上に成り立つ生態系を見せるサイトは「エコサイト」ジオの上に成り立ちを人々に見せるサイトを「文化サイト」と定義づけ、施設や遠景を見せるためだけのサイトは〇〇サイトからはのぞいたほうがいい。

制度上ジオパークで保護対象にするものは、地質地形に基づくものだが、ジオパークで対外的にお客さんに見せるものは、大地と人々の繋がりを見せることが必要不可欠。

- ・条件付再認定の認定基準について

委員会でもよく議論になるが、宿題がクリアされていれば認定にはしない。実際二年間で整えきれものばかりではなく、急ごしらえで作ってもいいものにはならない。途中段階でも作ったものを見せて欲しい、ただし、情勢に応じてリニューアルすることを心がけるようにする。